

白山ののいち医師会報

2023年
No. 16

発行日 2023年3月30日
発行 白山ののいち医師会
〒924-0865 白山市倉光7-122
TEL 076-275-0795 FAX 076-276-8205

巻頭挨拶

会長 松 葉 明



この3年余の間、国民も医療従事者も、コロナ禍に翻弄されてきました。2019年末、中国武漢で発生したCOVID19感染症は、瞬く間にパンデミックとなり、世界中に拡散されました。この間、様々な感染

拡大防止策、迅速なワクチンの開発と間歇的接種、又、一般診療所でも投与可能な数種類の経口治療薬も認可されましたが、未だに繰り返す感染拡大と収束の連鎖を断ち切ることが出来ないのが現状です。多くの会員の皆様には、感染防止対策の下、通常診療を継続しながらも、発熱外来やワクチン接種業務に日々ご尽力頂いた事、この紙面を借りて深く御礼申し上げます。当医師会の内科系医療機関の約80%が発熱外来として登録され、又、外科系医療機関にも参加頂いておりますが、with コロナ時代はまだ当分続きそうな気配であり、引き続きご協力をお願いしたいと思います。この会報が、発刊される頃には、コロナ感染症も2類相当から5類に変更され、マスク着用を始め、様々な規制緩和が行なわれているかと思われませんが、医療従事者には、従来通りの対応が必要と思われ、又、ワクチン接種や検査・治療費については、引き続き公費負担の継続が望まれます。

さて、世界に目を向けると、2022年2月にロシアのウクライナへの一方的な軍事進攻（侵略戦争）が始まり、既に1年以上が経過しました。世界中の誰もが戦争を忌避し、平和を望んでいるはずのこの21世紀時代に、国連の常任理事国である1国の蛮行を誰も阻止することが出来ない現実をまざまざと知らされ、世界平和の危うさを感じました。又、太平洋戦争以後、戦争を放棄した我が国も決して侵略の対象外では無い事も認識

し、国の防衛論の転換も喫緊の課題と思われました。

さて、医療界の話題として、本年4月より、全医療機関に対して、マイナンバーカードによるオンライン資格確認カードリーダーの設置が原則義務付けられました。マイナンバーカードの普及が充分進んでいない状況の中、拙速な決定とも思われましたが、今後、セキュリティを担保した上でマイナンバーカードに様々なデータが紐付けられる事により、患者、医療機関双方のメリットが生まれることを期待しています。但し、運用初期には、様々なトラブルが想定され、医療機関によっては、一定の猶予期間も望まれます。

当医師会では、コロナ禍の為、これまで、多くの事業の中止を余儀なくされてきましたが、学術講演会などは、webを利用して、積極的に開催され、コロナ前より、むしろ多くの参加を頂いています。又、白山・野々市2市行政との懇談会は、両市の市長のご来席の上、引き続き対面で継続し、3師会や医療・介護連携事業等もハイブリッド形式で再開されています。web使用については、感染防止、会場費の節約、移動時間の削減といったメリットがある一方、会場の臨場感の欠如、参加者とのコミュニケーションや質疑応答が低調等といったデメリットもあり、今後は、感染防止に配慮した上で、ハイブリッド形式も残しながら対面中心の開催が望ましいと考えています。

尚、当医師会理事会は、従来通り、対面で行っていますが、昨年10月より、会議資料の閲覧等、全理事がタブレットを用いて会を進行しており、近い将来、ペーパーレス化を目指しています。今後とも、当医師会に対する忌憚の無いご意見やご指導を宜しくお願い致します。

最後に、本年度の会員皆様のご健勝とご活躍をお祈りして、巻頭の挨拶とさせていただきます。

白山ののいち医師会定時総会（令和4年6月11日）

令和4年度の定時総会が6月11日グランドホテル白山で行われました。

白山ののいち医師会員の過半数（130名）の参加者及び委任状により総会が成立、議長に高田 宗之先生が選出され、議事録署名員に安原 稔先生、筑田 正史先生が任命されました。

第1号議案、役員改選（理事・監事・裁定委員）に当たり、執行部より提案され、全会一致で承認されました。第2・3号議案、令和3年度事業報告と収支決算報告及び会計監査報告が執行部より一括提案され、全会一致で承認されました。また、令和4年度事業計画（案）と分掌（案）及び収支予算書（案）が執行部より一括提案され、全会一致で承認されました。

定時総会終了後、任期満了に伴う会長（代表理事）及び副会長を選任するための第3回理事会が開催されました。会長に松葉 明理事、副会長に真田 陽理事、同じく古澤 明彦理事を推薦するとの意見が出され、他に意見がなく協議の結果、全員意義なく可決承認されました。

（真田 陽）

会 長	松葉	明		
副会長	真田	陽	古澤	明彦
理 事	生駒	友美	加納	昭彦
	眞田	宏人	高澤	和也
	谷	卓	津山	博
	寺島	成明	富田富士夫	
	長尾	信	長野	賢一
	橋本	憲三	堀川	勲
	武藤	一彦	柳	昌幸
	山川	治	山本	信孝
監 事	吉光	康平	河合	博



退会のあいさつ



「白山ののいち医師会を退くにあって」

医療法人美脳 札幌美しが丘脳神経外科病院

顧問 佐藤 秀次

当医師会の退会にあたり、長年お世話になりました松葉 明会長と会員の皆様に心より感謝申し上げます。コロナ禍のさなか退職したため、皆様に直接お礼・ご挨拶できず大変失礼しました。この度、このような機会を与えていただき大変光栄に存じます。

私は、金沢脳神経外科病院が開院した昭和55年5月の翌年から勤務し、昭和61年から令和2年3月までの約34年間、病院長を務めました。私の使命は、全国トップレベルの専門病院を創りあげることと受けとめ、医療の質向上に努めました。開院の10年後頃から、専門病院に特化するには病診連携が不可欠と考え、病院完結型医療が主流の時代でしたが、地域完結型への転換に着手しました。種々の取り組みの一つが、今では当たり前の「逆紹介」でした。病診連携への不退転の決意を表明する最良の方法は、入院治療で病状の安定した患者さんの診療所への逆紹介と考えたからです。当時、地域の先生から病院に紹介した患者が戻ってこない、との苦情が多かったので、逆紹介は高く評価していただき、病診連携は順調に拡大しました。他には、国内初のアルツハイマー型認知症の治療薬アリセプトが平成11年に発売された折り、「私どもが早期診断と定期的な進行評価を行い、治療は診療所で行う」という連携体制の構築があります。地域の先生と勉強会や懇親会を重ねた日々が懐かしく思い出されます。

県レベルでは、石川県脳卒中連携協議会の設立が

あります。これは金沢大学脳神経外科 故濱田順一郎教授の自由闊達で、古い権威に捕らわれないお人柄と高い識見によって学閥の壁が取り払われて可能になりました。金沢脳外は事務局を担い現在に至ります。

金沢脳外は患者数や手術が増える一方で、医師不足は解消困難でした。2008年に医師事務作業補助体制加算制度が設立されたことから、医師事務作業補助者を2010年に導入し、医師の負担軽減に乗り出しました。2011年にNPO日本医師事務作業補助研究会を立ち上げ、後に協会となりましたが、私は顧問として全国の医師事務作業補助者の育成に取り組んでいます。さらに、聖路加国際病院名誉院長の故日野原重明先生が初代理事長を務めた医療秘書全国協議会と日本医療秘書学会の3代目会長として医療秘書を目指す学生の教育にも関わっています。これらは多職種協働医療の推進には医師事務作業補助者の育成が不可欠という私の信念に基づく活動です。退職後は、週一日は能美市立病院の外来、週三日は札幌で手術・診療を続けています。私は今年、後期高齢者になりますが、体力の続く限り患者さんと社会のために残された時間を有効に使いたいと考えています。

結びに、当医師会の議長の重責を与えて頂きましたことに深謝し、コロナ禍ではありますが皆様の益々のご発展を祈念してご挨拶とさせていただきます。

白山市医師会と小中学校校長会との懇談会

令和4年5月26日(木) グランドホテル白山

5月26日(木) 午後7時からグランドホテル白山 グローリーホールにおいて、会員 3名、Web参加 3名、校長会 28名の参加をいただき開催しました。校長会から「学校における感染対策・対応等の現状について」の演題にて、北陽小学校 紺村由紀子校長・美川小学校 今井 直人校長にスライドを提示していただきました。今井先生には学校の感染防止対策・学校生活の日常および行事をどのように行っているかお話しいただきました。ばんどう内科・呼吸器クリニック 院長 坂東 琢磨先生に「コロナウイルス感染症～これから求められる対策～」の演題にてご講演をいただきました。先生のご講演は簡

潔でわかりやすく、後日おこなわれた校長会においても大変参考になったとの声が多数届きました。

(理事 津山 博)



感染対策向上加算合同カンファレンス

第一回 令和4年7月27日(水) 第二回 令和4年12月2日(金) 公立松任石川中央病院

第一回、第二回合同カンファレンスは公立松任石川中央病院にて、公立松任石川中央病院・白山ののいち医師会共催で研修会が行われました。第一回は7月27日におこなわれ、19名の会員に出席していただきました。「感染対策向上加算」の施設要件の説明があり、連携強化加算シートの記載方法、PPEの脱着訓練を行いました。会の終了後には公立松任石川中央病院の発熱外来の見学ができ、大変参考になりました。第二回は12月2日に会場・Web参加あわせて31名の会員に参加していただきました。岐阜大学医学部付属病院 生体支援センター教授 馬場尚志先生から外来での『抗微生物薬適正使用につい

て』の演題でご講演していただきました。講演内容は1. 新型コロナ感染症の現在地と経口抗ウイルス薬について、2. インフルエンザ 今冬の懸念材料と抗インフルエンザ薬 3. 経口抗菌薬の適正使用でした。新型コロナ感染症による死亡数・死亡率の推移から始まり、中でもCOVID-19における自然免疫と病態、重症度別の治療法の説明は明解で分かりやすく、興味深いものでした。公立松任石川中央病院安全対策室から白山野々市地区の抗生剤使用状況をお話しいただき会は終了いたしました。

(理事 津山 博)

令和4年度 公立松任石川中央病院 病診連携症例検討会

◆第30回

日時：令和4年7月14日(木) 19:00~20:00

場所：ハイブリッド開催 公立松任石川中央病院・オンライン配信(ZOOM)

演題：症例1「末期腎不全、心不全を発症するも
保存的腎臓療法を選択された高齢者
男性の一例」
腎高血圧内科 医長 林 大輝 先生
症例2「脳神経外科医1名のみの総合病院で、
行っていること、行っていないこと」
脳神経外科 救急医療部長
村上 健一 先生

◆第31回

日時：令和4年10月6日(木) 19:00~20:00

場所：ハイブリッド開催 公立松任石川中央病院・オンライン配信(ZOOM)

演題：症例1「たこつば型心筋症に合併したHFrEF
の1例」
循環器内科 医長 野口 昌寛 先生
症例2「粘液性卵巣癌の1例」
産婦人科 医療安全副部長
砂崎 紀子 先生

第18回病診連携研修会

“南ヶ丘病院内科の取り組み”

令和4年10月15日(土) グランドホテル白山

南ヶ丘病院内科 診療部長 土屋 晴生

当院内科で新しい取り組みの紹介と病院からみた救急搬送の問題点と解決に向けた取り組みについてお話しいたします。

内科は常勤医4人で担当は一般内科、呼吸器内科、腎臓内科です。非常勤医は循環器内科、血液内科、物忘れを担当していただいています。一般内科では生活習慣病、感染症、アレルギー、高齢者の内科疾患一般を扱っています。新病院になってから診療体制が充実しつつあり、新しく導入された64列のCTを使って、冠動脈CTが撮影可能になりました。動脈硬化性疾患のリスクの高い患者さんがいらしたら、頸動脈の超音波などのスクリーニングを依頼していただき、必要であれば冠動脈CTや脳MRI/MRAの撮影まで行えます。冠動脈CTの読影は、金沢循環器病院と提携して解析していただいております。

呼吸器内科では新しく専門の医師が着任し、Full PSG検査を行えるようになりました。簡易PSGは外来でも可能ですが、Full PSG検査が必要な場合はご紹介していただければ当院でも行えます。

腎臓内科では新病院になって透析を開始いたしました。

次に病院からみた救急搬送の問題点と解決に向けた取り組みについてです。

これには当院、患者さんと家族、かかりつけの医療機関、施設の間の情報共有が重要です。

当院の現状として、生化学検査が外注ですので時

間がかかり、夜間休日に放射線科読影ができない、当直医が一人であり専門外の疾患に対応ができない場合があります。検査機器は近々導入する予定です。

患者さんご家族については、ご高齢の患者さんの状態が悪化したときに、どこまでの医療を希望されているのか、はっきりと決まっていないことがあります。高度の認知症や致死性の疾患の終末期であっても、積極的治療の適応がないことをご家族が理解できていないで当院の能力を超える対応を希望される場合は、高次医療機関に搬送するしかなくなってしまいます。

施設への御願いとしては、可能であれば入所時に当院を受診させていただいて、病状の把握と病状悪化時の対応（積極的治療を希望され高次病院に搬送する、南ヶ丘病院でできる範囲で良いので当院に搬送する）を決めていただければ良いと思います。

かかりつけ医の先生方には、バイタルサイン悪化、中枢神経症状、呼吸困難、強い胸痛や腹痛など生命の危機に直面する可能性がある場合は、南ヶ丘病院でできる範囲で良いのか、意志確認をお願いいたします。



第18回病診連携研修会**当院における整形外科診療の現状と二次性骨折予防のための取り組み**

令和4年10月15日(土) グランドホテル白山

南ヶ丘病院整形外科医長 福 淳史

2022年10月15日に白山ののいち医師会第18回病診連携研修会で発表いたしました。今回はその内容を簡単にまとめさせていただきます。

南ヶ丘病院は1978年(昭和53年)に金沢市に開設され約40年に渡り金沢市南部地区の地域医療を担ってきた。2021年(令和3年)6月に野々市市に移転し、新病院での診療をスタートさせた。移転後は野々市市、白山市の地域医療に関わることが多くなっている。病床数は一般病床120床(地域包括ケア病棟35床、一般病床35床、回復期リハビリテーション病棟50床)設置し、全部屋個室となっている。整形外科は常勤医2名(整形外科専門医)体制で診療にあたり骨折などの外傷から膝、股関節、脊椎などの変性疾患、骨粗鬆症など整形外科一般の幅広い病態に対して外来、入院手術・保存加療を行っている。新病院移転後は手術件数が約1.6倍増加しており、2022年度では300件を超える手術件数を見込んでいる。当院で行っている主な術式としては骨折観血的手術、人工骨頭挿入術、人工股関節置換術、関節鏡下半月板縫合・切除術、関節鏡下靱帯断裂形成術、CM関節固定術、腰椎椎間板切除術、腰椎固定術、頸椎椎弓形成術などが挙げられる。また当科では金沢大学整形外科より骨軟部腫瘍、スポーツ整形・膝関節外科の専門医の他、手の外科、股関節外科専門医の先生方の協力のもと診療を行っている。(詳

細は当院までお問い合わせ頂ければ幸いです。)

当院における二次性骨折予防のための取り組みについて説明したい。脆弱性骨折の中でも大腿骨近位部骨折は生命予後に大きく影響を及ぼし、要支援、要介護の大きな要因となる。2022年から二次性骨折予防管理料が策定され二次性骨折予防の機運が高まっているため、当院でも骨折リエゾンサービス(FLS)の導入を検討している。(現在は導入済)導入前の評価として2021年10月～2022年9月までに当院で大腿骨近位部骨折に対して手術加療を行った60例を検討した。男女比は女性が72%、年齢分布は80-90歳代に多く、ほぼ全国統計と同様な比率となっている。術後に骨粗鬆症加療が開始された例は9%と少なく、術前からの介入と合わせても約30%とフォローアップが不十分と考えられた。この原因は45%の方が施設退院となっており退院後のフォローが困難であることが原因の一つと考えられた。今後多職種が関与し入院とともに骨粗鬆症加療さらには退院後のフォローができる体制を構築し、病診連携の一つの柱になればと考えている。当院での二次性骨折予防管理料算定開始時期や連携の方法など具体的な方策が決まり次第改めて周知できればと考えている。



日本医師会認定

白山ののいち医師会産業医研修会

令和4年11月4日(金) グランドホテル白山

昼休み中の電話番、始業前の除雪、始業前のロッカー室での着替え、就業後の職場の掃除。これらは労働時間になります。前日の夕方6時に退社し翌日夕方6時に出勤しこの間24時間仕事なし。この24時間は休日扱いにはなりません。使用者が労働者の正確な実労働時間を把握しないと労働者が過重労働になっている可能性があります。

働き方改革では労働者が36協定の上限規制で守られているか、労働者や使用者が長時間労働に気づき、時に産業医へ繋がりがやすくする取り組みです。

労働時間の正確な把握のためタイムカードなど客観的な記録が望ましいとされますが、やむを得ず自

己申告制を行う場合には労働者が適正に報告できる環境が必須です。

又賃金台帳に労働日数や労働時間数を適切に記入する必要もあります。

週の実労働時間が40時間を超え、月80時間を超え、疲労の蓄積がある。

その労働者が体調不良を申し出て面接の希望があった場合、産業医は面接し使用者に適切な指示を出さなければなりません。

労働時間の正確な把握方法が使用者、産業医に求められます。

(担当理事 加納 昭彦)

「産業医が知っておきたい労働時間管理のポイント」

独立行政法人 労働者健康安全機構

石川産業保健総合支援センター 副所長 道下 豊

【はじめに】

脳・心臓疾患や精神障害に関する労災請求件数は、平成30年以降、約2,600～3,100件の間を推移しており、健康リスクの高い労働者を見逃さないためには、産業医の役割が大きくなっています。平成30年の労働安全衛生法の改正では、産業医による面接指導の実効性を確保するため、事業者が労働時間の状況の把握が義務づけられました。この点からも健康リスクの高い労働者を抽出するフィルターとして「労働時間管理」が重要になるため、健康リスクの高い労働者を見逃さないための労働時間管理のポイントを紹介します。

【労働時間の考え方】

「労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関するガイドライン」(平成29年1月20日策定)では、「労働時間」を「使用者の指揮命令下に置かれている時間」と定義し、「使用者の明示的・

黙示的な指示により労働者が業務を行う時間」を労働時間としています。

本ガイドラインは、労働者のどのような行為が労働時間に該当するかも例示されており、労働時間管理を行う上での基本になります。

【労働時間の状況の把握】

前述のガイドラインでは、労働時間の適正な把握方法が示されており、その方法は、要約すると、「原則として、タイムカード、ICカード、パソコンの使用時間の記録、事業者の現認等の客観的な記録により、労働者の労働日ごとの出退勤時刻を確認・記録し、この時間を基に何時間働いたか(実労働時間)を把握・確定する。」となります。

本ガイドラインでは、労働時間を把握する対象から管理監督者や裁量労働制などのみなし労働時間制対象者を除外していますが、労働安全衛生法では、これらの労働者も漏れなく健康確保措置の対象とす

るため、関係法令との整合性の観点から把握すべきものを実労働時間ではなく「労働時間の状況」（労働者がいかなる時間帯にどの程度の時間、労務を提供し得る状態にあったか）としています。なお、把握方法は、ガイドラインと同様で「原則として、タイムカード、ICカード、パソコンの使用時間の記録などの客観的な方法により労働日ごとの出退勤時刻等を記録すること」になります。

この点から、健康リスクのある労働者を見逃さない前提条件は、労働時間の考え方を踏まえ、すべての労働者の労働時間の状況を客観的な方法で把握することと言えます。

【労働時間管理規制】

労働基準法には、労働時間数の規制として、「法定労働時間（1日8時間、週40時間）」や「時間外・休日労働に関する規制」があります。特に、時間外・休日労働に関する規制では、長時間労働の抑制のため、時間外・休日労働時間数の上限時間数が定められるほか、運用指針には、健康福祉確保措置の設定も定められています。

一方、労働基準法には、法定労働時間の弾力的措置の規定もあり、代表的なものには、閑散期に所定労働時間を短くし、繁忙期に法定労働時間を超える所定労働時間を設定することで一定期間を平均し週40時間以内とする変形労働時間制や、業務遂行を大幅に労働者の裁量に委ねるもので、予め定めた時間を働いたとみなす裁量労働制などがあります。これ

らの労働時間制度は、運用次第では労働者のワーク・ライフ・バランスに効果がありますが、長時間労働や不規則な勤務形態の要因となるなどの課題も内在しています。

労働時間管理では、時間外・休日労働に関する規制による長時間労働の抑制が注目されますが、弾力的な労働時間制度には健康管理上の課題も内在することから、長時間労働者などの面接指導では働き方の実態を踏まえた配慮も必要になります。

【変形労働時間制と面接指導の対象となる労働時間の算定】

変形労働時間制では、繁忙期に法定労働時間を超えて所定労働時間を設定することができるため、この時期に時間外・休日労働を行った場合には、必然的に1か月の総労働時間が長くなります。

労働安全衛生法では、面接指導の対象となる1か月及び2～6か月の時間外・休日労働時間数を算定に当たって、単に1か月の時間外・休日労働時間数を合算するのではなく、1か月の総労働時間から1か月当たりの法定労働時間数を差し引くものとしており、月々の業務量による差が生じないようにしています。

変形労働時間制の導入事業場の面接指導では、健康リスクの高い労働者を見逃さないため、各月の時間外・休日労働時間数の算定方法の確認のほか、健康上の配慮に当たって繁忙期間がどの程度続くかといった点にも留意が必要になります。



令和4年度 石川県医師会との懇談会報告

令和4年10月14日(金) Web

令和4年10月14日午後7時より恒例の石川県医師会との懇談会が開催されました。

今年も新型コロナウイルス感染流行の収束はみられず、今回もWebを併用したハイブリッド参加での開催となりました。

また、本年度は白山ののいち医師会だけではなく、石川中央医療圏を構成する河北郡市医師会、金沢市医師会と合同での懇談会として開催されました。

県医師会は安田会長以下21名、当医師会は24名の出席となりました。

安田石川県医師会会長と鍛冶金沢市医師会会長のご挨拶の後、沖野河北郡医師会会長の司会により懇談会が開催されました。

今年の懇談会の議題は以下のごとくでした。

石川県医師会からの提出議題

- 1 新型コロナウイルス感染症対策について
- 2 感染対策向上加算について
- 3 国が進めるデータヘルス改革について
- 4 医学部卒後5年間会費減免期間の延長について
- 5 石川県医師会心臓検診委員会の紹介について
- 6 第31回日本医学会総会2023東京のご案内
- 7 石川県医師協同組合からのおしらせ

郡市医師会からの提案議題

- 1 新型コロナウイルス第7派への対応と今後の課題について（金沢市医師会）
- 2 オンライン資格確認等システムについて（河北郡市医師会）

なお、当医師会からの議題提案はありませんでした。

1. 今回も話題の中心は、新型コロナウイルス感染症でした。これについては高田重男副会長より解説がありました。パンデミックの歴史的変遷、インフルエンザウイルスとの相違点の解説から今後の動向、医療体制のあり方などにつき説明がありました。コロナウイルスの感染の波は数ヶ月でピークを迎え発症数が減少していくなかで新たな株と交代し、次の感染爆発の波が起こるパターンを繰り返しています。いままでの傾向では株が交代するにつれ、感染力が強くなってきましたが、重篤化するケースは減少しているようです。特に若年者では軽症や無症状感染者も多くなっており、このような病原性の変化に合わせて、社会としての対応も変化させる必要があります。いままで通り感染拡大防止を継続するとともに、社会経済活動をパンデミック以前に戻すように変えていく必要があります。

今度の5月の連休明けにもコロナ感染症は、感染症法の2類相当から5類（相当）になる予定です。それに伴い各医療機関の診療体制についても変化が求められ、一般診療所では感染対策を行いつつ、患者に対する基本的治療の実施と療養者の受診や相談、一般施設での外来診療に移行しなければなりません。

なお、抗原定性検査キットは防疫としての活用が有用とのことです。PCR検査に比してその感度は低い（検出感度：PCR 10^2 コピー／ml>抗原キット 10^5 コピー／ml）ものの、この感度で陰性ならば他人に感染させないとされています。PCRは診断、抗原検査は防疫（他に感染せない）にと使い分けができるとのことでした。

2. 感染防止対策強化のため、診療所における感染対策向上加算が新設されました。各医療機関においても算定されているところが多いと思われます。算定には新たな要件が必要となっています、細かい

解説の資料は医師会事務局にありますので、まだ算定していない医療機関も積極的に算定を検討されたいかがでしょうか。

3. 国が進めるデータヘルス改革は政府の「骨太の方針2022」において閣議決定され、医療DXについての工程表が示されました。医療DXとは「データヘルス、オンライン診療、AI・ロボット・ICTの活用など医療分野におけるトランスフォーメーション」とのことですが、その工程表にのっとり個人健康記録（Personal Health Record：PHR）として個人の健康・医療・介護に関する情報を、デジタルデータとして一人ひとりが自分自身で生涯にわたって時系列的に管理・活用する仕組みを構築することとなっています。

これは決定事項となっており、医療機関に対しては令和5年4月からのオンライン資格確認の導入を原則義務づけており、このオンライン資格をネットワーク化し、PHR情報の共有を目指しています。さらに令和5年1月より電子処方箋の運用も開始されます。電子処方箋の発行には医師資格証（HPKIカード）が必要です、カードの発行は日本医師会で行っていますので、ご希望の方は日医に申請してください。

また、電子カルテ情報の標準化、診療報酬改定におけるデジタルトランスフォーメーションも骨太の方針2022に沿って着々と進められており、各医療機

関も対応が迫られています。

4. 日本医師会の組織率は年々減少しており、令和2年には51.2%と50%割れ寸前になっています、石川県では郡市医師会の加入率は全国平均レベルですが、日医加入率は全国最低レベルです。医師会の組織率が低下すると、国の医療政策、診療報酬等に対する発言力が低下することは避けられません。日医は組織率向上策の一つとして、医学部卒後5年間の会費を免除することとしました。これは加入率の低い若い医師に対し日医への加入を促し、臨床研修終了後にも医師会員の資格を継続してもらうための取り組みです。それに対応し石川県医師会においても同様に卒後5年間の会費免除を行うこととしました。

5. 6. 7. については紙面の都合上割愛しますが、資料は事務局にありますので、関心のある方はお問い合わせください。

医療を取り巻く情勢に対応する情報源として、日本医師会・石川県医師会・白山ののいち医師会の考え方・対応状況など、今後の診療に役立つことと思われます。令和5年度も多くの会員の参加をお願いします。

(安原 稔)

第13回「医療と介護のシンポジウム」を終えて

令和4年11月28日(月) 白山ののいち医師会館

3年ぶりとはなりましたが、昨年11月28日に第13回「医療と介護のシンポジウム」を白山ののいち医師会館にて開催しました。いまだコロナ感染の鎮静化には遠い状況で、医師会館では演者とスタッフのみで講演、発表および討論を行い、参加者にはWeb配信する形をとりましたが、この形態にも皆さん馴染んできて、事務局中山さん、武田さんの尽力もあり、スムーズに進行することが出来ました。

さて、このシンポジウムでは過去いろいろなテーマを取り上げてきましたが、今回は「成年後見人制度」を選びました。在宅医療の充実が叫ばれるようになってからかなりの年月を積み重ね、在宅療養患者さんの医療や介護の制度や、現場での技術面は整ってきました。ですが、一方で社会情勢の変化から老々介護、おひとり様介護、相続トラブル、さらには介護放棄など社会的にも解決困難な課題も目立ってきているのも事実です。

こういった社会的な問題を抱えた在宅療養を下支えするために「成年後見人制度」の活用が有効なこ

ともあり、より皆さんに知っていただこうと、この分野での第一人者である社会福祉士の齋田和樹氏（ケアサポートネットワーク・ピーナッツ）に成年後見制度の概要に関しての実例を交えての解説をしていただき、加えて第一線で活躍されておられる野々市市障害者機関相談支援センターの橋直さん、白山市長寿介護課の笠森恵さん、ケアプラン白山健康企画の山将之さんに、シンポジストとしてこの制度の活用が有効であった事例などの報告をいただきました。

シンポジウム開催後のアンケート結果を見ますと、「この制度についての理解が深まった」、「事例が豊富で分かりやすく学びがあった」との意見がありご評価いただけたものと考えています。

制度的には未完成な部分もあり、今後は医療介護の現場から成年後見人導入までの手続きなどスムーズに進められるような懸け橋として何らかのサービスの形も必要なのかもしれません。

(実行委員長 山川 治)



令和4年度 在宅医療連携リーダー研修会報告

令和4年1月31日(月) グランドホテル白山

令和4年1月31日午後7時より、グランドホテル白山において在宅医療連携リーダー研修会が開催されました。なお、今年も昨年同様一部WEBを用いてのハイブリッド開催となっています。

この研修会は白山市在宅医療介護連携協議会と白山野々市「医療と介護のシンポジウム」運営委員会の共催の形で行われました。

今回は以下のような講演会の形式で行われました。

司 会：安原 稔

開会挨拶：白山野々市「医療と介護のシンポジウム」運営委員会 代表 松葉 明

座 長：白山野々市「医療と介護のシンポジウム」運営委員会 山川 治

テ ー マ：「在宅歯科診療とオーラルフレイル」

講 師：在宅療養支援歯科診療所

こばやし歯科 小林雅人先生

質疑応答

閉会挨拶：白山市在宅医療介護連携協議会

会長 真田 陽

参加者は50名で、医師・歯科医師、保健師・看護師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、ケアマネージャー、社会福祉士、事務職などと様々な職種の参加をいただきました。

小林先生には口腔・咽頭・喉頭部の解剖から嚥下機構と誤嚥のメカニズム・要因について解説していただきました。口腔機能低下の予防に関わる歯や義歯の重要性、唾液の働きと口腔自浄作用など、口腔ケアの重要性の説明など、介護職にもわかりやすく、医療職にも有用なお話でした。

今後もWebを用いたハイブリッド形式での開催が続くと考えられます、より一層の改善を図っていきますので、多くのご参加をお願いします。



令和4年度 2市保健衛生・学校保健懇談会

令和5年2月9日(木) グランドホテル白山

恒例となった当医師会と白山市・野々市市との標記懇談会が、令和5年2月9日グランドホテル白山に於いて、白山市横川祐志副市長、野々市市栗貴章市長、両市の健康福祉部長並びに教育長をお迎えし、開催されました。まず、例年通り、両市より

① 任意ワクチン接種の公費助成拡大

② がん検診の現状報告

③ 特定健診・保健指導の現状及び評価

上記の定例報告の後、当医師会から提出した協議議題

④ 学校に於けるwithコロナ時代の対策・対応

⑤ メンタルヘルス〈不登校等〉への対応

⑥ コロナワクチン接種の総括

についてそれぞれ報告頂き、意見交換を行いました。

コロナの規制緩和が進む中、学校での感染防止対策は、基本的には現状を維持し、感染状況に応じて、徐々に緩和を検討していきたいとの見解でした。不登校等のメンタルヘルスについては、各校共に苦慮している処であり、市の子供相談室の積極的な活用が推奨されました。又、一向に減らないいじめについては、いじめに至る以前の道徳教育が肝要との意見も出されました。更にヤングケアラーの問題も提起され、地域包括センター等による早期の介入・支援が必要と思われました。

1時間程度を予定していましたが、白熱した討論が交わされ、大幅な時間延長となりましたが、十分な情報交換が出来、内容の濃い懇談会となりました。

(松葉 明)



白山ののいち地区三師会

令和5年2月22日(水) グランドホテル白山

R5年2月22日GH白山で恒例の3師会（今年度は医師会が当番）が開催されました。松葉会長による開会挨拶に続き、長尾理事から「コロナ感染症の話題」と題した講演が行われました。

疫学、感染経路、o株、治療、後遺症、5類変更等に関しコンパクトに解説して頂きました。質疑応答では、①抗原キットと感染性②ワクチン接種と薬

剤情報③薬物使用基準や処方実態④o株と死亡例等活発に行われました。協議会では薬剤師会から多剤服用問題解消に向けたKDBや電子処方箋の利活用、医師会から発熱相談窓口としての薬局の役割等について協議が行われました。最後に直田薬剤師会会長から総括と挨拶を頂き閉会となりました。

(古澤 明彦)



かかりつけ医等認知症対応力向上研修第1・2回事例検討会

◇第1回事例検討会

日時：令和4年12月8日（木）19：00～21：00

場所：にぎわいの里ののいちカミーノ

内容：事例紹介の後、グループワーク、グループ発表、講師 中本理和先生からミニレクチャーと講評



◇第2回事例検討会

日時：令和5年2月8日（水）19：00～21：00

場所：白山市福祉ふれあいセンター

内容：事例紹介後グループワーク、グループワーク

発表、講師 長尾 信先生からミニレクチャー
と講評





マラソンと私

小村整形外科 小村 孝二

金沢医療センター勤務中の2011年に病棟行事で「金沢城リレーマラソン」に参加して以来、走ることの楽しさに気づき、今までに9回フルマラソンに出場しています。わざわざ新潟や霞ヶ浦に出向くほど、その魅力に取りつかれ、一時は月間150～180kmほど走りこみ素人ランナーの目標である4時間切り「サブフォー」を達成したこともあります。さすがに最近はそのまで走りこむことはありませんが、マイナスイオンに満たされた早朝の犀川沿いを走ることに至福の時を感じています。そんな私に医師会の会報編集委員長であられる橋本憲三先生からお電話で「先生、今年の金沢マラソンに参加したんだよね？それについて会報に何か書いてくれませんか？」と依頼を受け、「はい。わかりました！」と威勢よく即答したのが12月のことでした。今回の金沢マラソンについて、いざ体験記を書こうとPCに向かいレースを振り返ったものの、レース中の心境や経過などがほぼ思い出せないことに気づきました。単に記憶力が低下していることが主因でしょうが、実は金沢マラソンは今回で4度目ということで、初・金沢マラソンのときのような特別な高揚感がなかったことも強く記憶に残っていない一因でしょうか。金沢マラソンといえば、「食べまっしステーション」で提供されるスイーツや金沢カレーなどが全国的にも話題になりますが、パンフレットを見直してみても、「あ、こんなお菓子あったなあ」と微かに思い出す程度で「五郎島金時の優しい甘さが…」などといった食レポは到底できません。スタート地点でサプライズ登場した浜辺美波さんと目が合ったこと以外、特にイベントに遭遇することもなく、4時間49分09秒という平凡なタイムで無難に走り終えた大会ということになります。したがって体験記を書くことを諦め、何かマラソンに関わることで皆様にも有益な情報が提供できればと考えていたところ、クリニックに訪れたランナーである患者さんから雑

談的にランニングギア（厚底シューズ、圧着ウェアなど）について相談・質問を受けたことを思い出しました。ギアに関して自分の中でも疑問に思うことがいくつかあり、少し調べてみることにしました。

① 厚底シューズ

東京オリンピック代表の大迫傑選手や箱根駅伝で多くの選手が着用したことで一躍注目を浴びるようになりました。NIKE社がフルマラソン2時間切りを目指して2012年から5年の歳月を費やし開発したのが始まりです。2019年にキプチョゲ選手（東京オリンピック・金メダル）が同社の厚底シューズを履いて非公式ながら42.195kmを1時間59分40秒で走り切りました。以前は薄くて軽いシューズが「速く走るため」の定番でしたが、シューズの常識も変わってきているようです。厚底シューズの機構はシューズ全体がスプーン型（つま先が浮いている）の構造となっており、走ったときに身体が斜め上に送り出され、理想的な重心移動をサポートしてくれます。単に厚底にするだけではクッションが沈み込んでしまうので、ソール内にカーボンプレートを入れ反発力を補強しています。ただし初心者が履くとシューズの反発力が強すぎて、足が左右にぶれる危険性がありランニング障害の原因となることが多いようです。2020年のAmerican Journal of Sports Medicineによると、レクリエーションレベルのランナーにおいて反発力が高いシューズの方が低いものに比べてランニング障害発生率がそれぞれ17.6%と12.6%と報告されており、「高反発のシューズ」はやはり履く人を選ぶようです。

② 圧着ウェア

マラソンといえば、文字通りランニングシャツに短パンが一般的でしたが、最近は身体を締め付けるようなタイツやスパッツ、ソックスを使用するラン

ナーが増えてきています。見た目も格好よく、「疲労軽減・回復効果」や「ケガ防止・負担軽減」といった効能が謳われています。しかし、科学的にはどれほどエビデンスがあるのでしょうか。2021年のSports Medicineに圧着ウェアに関する183編の論文のレビューが掲載されていました。結果を要約すると、

- ・筋活動の増強→報告なし
- ・パフォーマンス→変化ないかも
- ・皮膚温→上昇する
- ・体性感覚→上昇するかも
- ・筋の振動→減少
- ・筋肉痛→減少
- ・血液指標（乳酸、CK、ミオグロビン、グルコース、血中pH、SpO₂）→変化なし
- ・心肺機能→変化なし

圧着ウェアがパフォーマンスを向上させるエビデンスは曖昧であり、運動学的成果の向上を裏付けるものはありませんでした。しかし局所的な皮膚温上

昇をもたらし、運動後の筋肉痛を減少させる可能性はありそうです。血液指標や心肺機能は変化ないことから、少なくとも身体に悪影響を与えることはなさそうなので、気になる方は着用してみてもよいかもしれません。

金沢マラソンでは、沿道やエイドステーションで大勢の方が「頑張れ！頑張れ！」と応援してくれます。コロナ前はハイタッチを求めてくる方も沢山いました。毎回ツエーゲン金沢のユニフォームを着用し走っているため、ゴール近くのツエーゲン金沢オフィシャルカフェの前ではびっくりするほど熱い声援を受け、自分が人気者になったかのような錯覚にとられます。これほど多くの方から熱い声援を受けた経験は人生では皆無であり、私にとって快感以外の何物でもありませんでした。この気持ちを味わってみたいという方はぜひ、2023年の金沢マラソンに参加してみてください。きっと、疲労や苦しみ以上の元気をもらえるはずです。



オランダ・ベルギー旅行記

真田医院 真田 陽

2022年9月のシルバーウィーク、長女夫婦と孫がいるオランダへ妻と二人で行った旅行記です。

9月17日関西国際空港19:55発KLM便 韓国インチョンを経由し、9月18日6:15（夏時間のため日本との時差7時間）アムステルダム・スキポール空港到着、関空出発時にはマスクを着用していましたがオランダではほとんどの人がしていません。その後、長女夫婦、孫とともに車でベルギーブリュッセルへ向かいました。ここでは高速道路は通行料金不要郊外へ出ると日本では田畑があるようなところはすべて牧場、広い敷地に牛が放牧されています。国境は県境のような道標があるのみで停まることなく通過、ブリュッセルは当日GreenDay（車を使用しない日）のため街の中へは車で入ることはできません。郊外の駐車場（当日は駐車料金不要）に車を置き、メトロ（当日は運賃不要）でブリュッセル中心地へ移動、美術館や博物館に囲まれた芸術の丘 王立美術館、マグリット美術館へ 宗教絵画からベルギー現代美術まで2万点以上が収納されており大変見応えがあるものでした。ギャラリー・サンチュベール（ヨーロッパで最も古いモール）にて買い物、17世紀のギルドの建物に囲まれた広場グランプラスから有名な小便小僧ジュリアン君に会った後、メトロで郊外へ、車にて次の目的地であるGent（ヘント）へ向かいました。



9月19日 スヘルデ川とレイエ川挟まれたところにあるヘントは浅野川と犀川が流れる金沢市と姉妹都市になっています。街の中心に1180年に築かれているフランドル伯爵城があり、その城壁からの眺めはヘントの街が一望でき格別です。聖ミヒエル橋からのレイエ川を挟んで中世の建物が見える眺望は素晴らしい（ビュースポット）。ランチ後、聖バーフ大聖堂やヘント市役所のある聖バーフ広場を経てヘントからオランダへ。

オランダは干拓地が多いためほとんど平地、アムステルダムの幹線道路には自転車専用車線がついており自転車が高速で走っています。自転車道は歩行不可、横断には注意が必要です。道路は石畳が多いためヒールのある靴は使用しにくく、多くの人がスニーカーを履いています。現金を持って行く必要はなく、クレジットカードで買い物を含め各種支払をしましたが、スーパーや個人商店ではクレジットカードよりもデビットカード支払いの方が主流となっています。

9月20日アムステルダムからオランダの政治の中心都市デン・ハーグへ向かいました。当日（9月第3火曜日）はオランダ国会の開会式パレードがあるため街中人出が多い。市の中心のビネンホフには12世紀から17世紀に建てられた由緒ある建物が集まっており、その一角にマウリッツハイス美術館があります。レンブラントの出世作「テュルプ博士の解剖学」やフェルメールの傑作「デルフトの眺望」や「真珠の耳飾りの少女」は素晴らしい。デルフト焼きで有名なデルフトへ向かいました。デルフト焼きの特徴は白地に藍色の模様であり日本の有田や中国の磁器に似ている。市の中心のマルクト広場には17世紀に建てられた市庁舎や15世紀に完成した新教会があり、少し離れたところに斜塔のある旧教会が見えます。

9月21日トラムに乗りアムステルダム国立美術館へ、レンブラントの「夜警」、フェルメールの「デルフトの小路」「牛乳を注ぐ女」を始め印象深い多数の作品を鑑賞することができました。国立美術館に隣接するヴァン・ゴッホ美術館では「黄色い家」「寝室」「ひまわり」「花咲くアーモンド」などゴッホが築き上げた素晴らしい作風に触れました。

9月22日メトロを利用、世界最古の映画館PatheTuschinskiの前を通り、かつての城壁にあったムント塔からシングル花市場、運河の家博物館へ。この博物館ではアムステルダムの成り立ち、運河形成、運河の歴史的变化を見ることができます。旧教会の周りのレッドライト地区（飾り窓）を通り、アムステルダム中央駅前へ、東京駅はこの駅をモデルにしたとも言われています。駅前から船に乗り運河クルーズ、運河から街をみました。

9月23日アルクマールオランダチーズ博物館ではオランダのチーズやバター作りの道具が展示されており、その前にあるワーフ広場のチーズ市のイベントでは重たいチーズを運搬人がユニークな動きで運んでいました。風車の村として知られるザーンセスカンスへ オランダでは風車は以前は排水用のものや粉挽き用のものが多くあったようですがここでは

辛子の粉をひく風車、塗料を作る風車、植物から油を取る風車などがあり、今も現役で働いています。ザーンダム街並み散策 レゴで作ったような建物が並び、家を積み重ねたようなinntel hotelsには驚きました。アムステルダムへ戻り乳業の盛んな国オランダへ来た記念にチーズ専門店にて多種のチーズを買い、その後スキポール空港にて長女夫婦、孫と別れ、オランダ出国手続きに1時間以上要しましたがマスクを着用20時10分KLM便に搭乗、オランダをあとにしました。



**病院紹介****公立松任石川中央病院・産婦人科**公立松任石川中央病院 産婦人科 **中村 充宏**

公立松任石川中央病院産婦人科について、2021年12月まで長年、砂崎紀子部長が常勤医として、友田明先生が非常勤医師として勤務しておりました。2022年1月に中村が赴任し常勤医2名体制となっております。友田先生は健診センターでの子宮がん検診を担当しております。

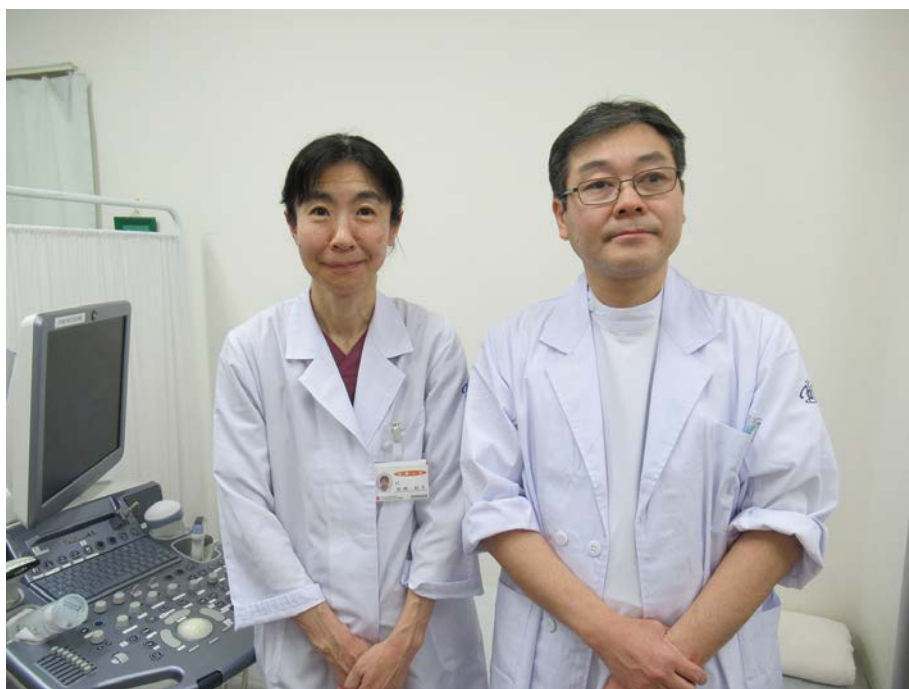
常勤医1名体制の時は、婦人科手術は年間60～70件でしたが、2名となりました2022年は114例と増加しました。これも各施設からのご紹介によるものであり心より感謝申し上げます。2023年は200例を目標にしております。術式ですが、腹腔鏡下の手術を積極的に取り入れております。2022年は約半数が腹腔鏡手術ですが2023年は7、8割になると考えております。またロボット手術やこれまで扱ってきませんでした悪性腫瘍手術も積極的に取り入れていきたいと考えております。さらに高齢化時代となり今後子宮脱といった高齢女性特有の婦人科疾患が増加するものと考えられます。子宮脱には腹腔鏡下仙骨脛

固定術を行っておりQOLの改善に努めております。手術以外では、体外受精は行っておりませんが生殖医療や更年期障害などの女性医学にも対応しておりますのでご紹介いただければ幸いです。

産科について、比較的リスクの低い妊婦を受け入れております。当院の特徴として甲状腺科及び精神科の患者さんが多くそれに伴い甲状腺及び精神疾患合併妊婦が多く紹介されます。

また専攻医が研修できる金沢大学産婦人科研修プログラムの連携施設に承認され2024年度から受け入れが可能となりました。症例を増やし、充実した研修生活ができるよう環境を整えております。

常勤医2名となり産科、婦人科問わず緊急にも迅速に対応できるかと思います。紹介していただけると幸甚です。高次機能病院である金沢大学病院、石川県立中央病院等と連携し白山ののいち地区の地域医療に貢献していく所存です。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



**病院紹介****特定医療法人 扇翔会 南ヶ丘病院****川上 重彦**

1978年から43年間にわたり診療を行ってきた金沢市馬替から、2021年6月1日に野々市市に病院移転を行い、6月2日より診療を開始、併せて白山ののいち医師会に入会をさせていただきました。白山市、野々市市の地域住民の方々の健康の増進に少しでもお役に立てればと念じております。

当院の概要についてお話させていただきます。病床は一般病棟35床、地域包括ケア病棟35床、回復期ケア病棟50床の計120床で構成されています。全室個室ですが、特別療養環境室料（いわゆる差額ベッド代）が派生する病室は3割以下であり、残りの病室では室料は派生しません。手術室は3室を有し、主に整形外科、消化器外科、形成外科の手術が行われています（月平均50～60件）。また、新たに設けた施設として透析室があります。最大20床の透析用ベッドを置くことが可能です。リハビリテーション施設も充実させました。病棟患者用の施設に加えて外来患者用の施設を別に設けて、リハビリテーション治療の充実を図りました。現在、これらの施設において常勤医15名、非常勤医13名が診療に従事して

います。そのうち、内科常勤医は5名、非常勤医は6名で、総合内科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科、循環器内科、血液免疫内科、心療内科、など内科全般をカバーしています。さらに、整形外科2名、外科1名、形成外科1名、小児科1名、放射線診断科1名、リハビリテーション科1名、検診部2名、在宅診療部1名が常勤医として診療を行っています。その他、泌尿器科は金沢大学泌尿器科学溝上教授をはじめとした教室の先生方に非常勤医として診療をお願いしています。2021年からは金沢大学肝胆膵外科学教授に就任されました八木教授にも非常勤医として診療をお願いし、消化器系の腹腔鏡下手術を担当いただいております。

病院規模としては決して大きくはありませんが、地域密着型病院として地域の方々の健康の増進に寄与するとともに、先生方が診られている在宅患者さんのレスパイト入院施設としても機能していきたいと思っております。よろしくご支援のほどお願い申し上げます。



■開業便り

きりの里診療所

原 潤一郎

2022年4月18日に白山市河内町の旧うらた医院あとに「きりの里診療所」を開院いたしました。

内科、整形外科、リウマチ科を標榜しておりますが地域がら住民の健康問題に幅広く対応できる診療所でありたいと思って居ります。

私は金沢市出身で、1990年に金沢大学を卒業しまして同大学整形外科に入局後、16年間金沢大学病院をはじめ各地の病院で整形外科医として勤務しましたが、眼科疾患（網膜前膜、白内障、緑内障）のためそれまでの病院での手術治療の道から一転、地域医療の方向に進路変更し、6年間の内科、地域医療研修を経まして、その後新潟県、石川県の診療所等での整形外科、リウマチ診療を含めた地域医療を行っておりました。

今回、ご縁があり、以前在職しておりました公立

つるぎ病院の近くで開業することになりました。

白山ののいち医師会の会員の皆様には、つるぎ病院時代、整形外科、または内科医としてお世話になりましたが、再び、皆様とご一緒できることをありがたく思います。

当院は、2019年末に閉院しましたうらた診療所様の施設を一部リフォームして開業しました。隣接のデイサービスはプラトーデイサービスが経営されており別母体となっており、送迎サービスも現在行っていないため、経営としては以前よりかなりこじんまりしたものとなっておりますが、白山麓の他施設様と協力して、また白山ののいち医師会の皆様にもお世話になりながら、微力ながらも、この地域の医療の支えになりたいと思っております。よろしくお願いいたします。



■開業便り

酒井内科クリニック

酒 井 佳 夫

野々市市三納にて令和4年10月18日に、酒井内科クリニックを開業いたしました。開業に際しては、沢山の方々より貴重なご支援、励ましを頂きました。感謝の気持ちを胸にスタートし今日に至っております。

私は、平成6年に金沢大学医学部を卒業後、同大学旧第一内科に入局し、2年の研修の後、消化器内科の臨床および研究に従事してきました。高齢者保健施設が隣接する病院での勤務もあり、地域に密着した医療も経験してきました。野々市はくさん医療圏では、公立松任石川中央病院で1年常勤したことがあります。また、昨年4～9月は、同病院で非常勤の消化器内視鏡医師として、内視鏡検査にたずさわったり、他の医療機関での実施とあわせて、月に100件をこえる内視鏡検査をして参りました。

研究にも興味がわき、2001年から2004年の米国NIH国立がん研究所（NCI）での留学を含め、長年にわたり取り組んできました。基礎研究もしてきま

したが、臨床への関心が常におおきく、2004年帰国後は、金沢大学でトランスレーショナル研究にたずさわったり、新しい血液検査の開発をはじめ、医師主導治験、医師主導臨床性能試験の実務に中心的に長くたずさわりました。テキストにかかれていない、新しい医療を現場に届けるための仕事の希望と大変な苦労を経験実感してきました。また、金沢大学医薬保健研究域医学系教員として、多くの医学博士課程のM.D.大学院生への研究、学位論文指導もし、論文執筆もしてきました。

開業した野々市市は、自分の幼いころから育った金沢市南部に隣接し、幼少時から慣れ親しんできた地域です。その地域で開業するめぐりあわせがあったことに感謝しております。この慣れ親しんだ地域をささえてきてこられた方々、若い世代の方々の健康と生活に寄与できるよう、医師会の先生方と医療にたずさわっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



■開業便り

つばきメンタルクリニック

山口 陽平

2022年9月1日、野々市市栗田に精神科クリニックとして「つばきメンタルクリニック」を開業させて頂くことになりました、山口陽平と申します。開業と同時に医師会にも入会致しました。

私は野々市市生まれで2008年3月に金沢大学を卒業し、初期研修の後2010年4月に金沢大学神経科精神科に入局、その後は公立病院を中心に勤務し精神科医としての経験を積んでまいりました。2019年10月からは金沢市内のクリニックで勤務していましたが、診療スタイルや環境面、より地元での診療をという思いが徐々に強まり野々市市での開業となりました。クリニック名の「つばき」は野々市市の花とされており、地域に根ざしたクリニックになるようにという思いを込めています。

受診される患者さんは、仕事のストレスなどによる適応障害、過呼吸、動悸などがあり、それに対する不安が強いパニック障害、手洗いや施錠の確認、運転中に事故を起こしたか不安になり確認行為が見られる強迫性障害、気分の落ち込み、意欲の低下を認めるうつ病、うつ状態を呈するものの双極性感

情障害が疑われるケース、数は多くありませんが統合失調症など多岐に渡っています。また、結果的に疾患としての診断ははっきりしない場合もありますが、困っている症状があるという方が受診されることもあります。受診に際し緊張感が強い方も多いため、できるだけリラックスしてもらえよう日々スタッフと試行錯誤しております。

ありがたいことに、病院やクリニックからご紹介を頂くこともあります。月経前症候群に関連した抑うつ、物忘れの訴えでも認知症が疑わしくないケース、身体症状のため精査を受けたけれど特に問題がなかった方などなど精神科以外の科からのご紹介もあり、日々悩みながら奮闘しています。今後も地域の医療機関として先生方との連携を密にして、少しでも患者さんのお役に立てる診療ができればと考えています。

まだまだ未熟な私ですが、つばきメンタルクリニックとともに成長していけるように努めたいと思いますので、これからもご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



公立松任石川中央病院 新任自己紹介



南 宏典

2022年度より赴任しました南宏典と申します。私は2011年に金沢大学を卒業後、初期研修を含めて5年間を横浜市立市民病院で勤務し、その後がん研有明病院で大腸外科レジデントとして3年間勤務しました。2019年度より出身地である金沢に戻り、金沢大学やJCHO金沢病院で勤務し、現在に至ります。専門は大腸外科で、当院においては昨年度よりロボット支援下結腸切除を開始しております。今後も白山・野々市地域の医療に貢献できるよう精一杯努力して参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



船崎 友馨

初めまして、2022年4月から赴任しました船崎友馨と申します。糖尿病や内分泌疾患を主に診療しております。いつも大切な患者様をご紹介頂きありがとうございます。普段は紹介状のやりとりのみですが、時には準緊急的に直接電話で情報を共有する機会もあり、先生方の患者さんへの思いをひしひしと感じます。そして『誠実に診療に向き合わなければ』と改めて心が引き締まります。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。



林 健太郎

令和4年度より公立松任石川中央病院で働かせていただいている林健太郎です。現在医師5年目で、消化器・小児・一般外科を中心に業務にあたらせていただいております。まだまだ未熟ではございますが、少しでも白山地区に貢献できるよう日々精進していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



杉原 史紘

循環器内科のスギハラと申します。大学時代は少林寺拳法と筋トレをしていましたが、最近は運動習慣がなくなってきました。趣味はサブカルチャー系とラジオ視聴で、毎日オールナイトニッポンを聞いています。よろしくお願い致します。



大谷 啓輔

循環器内科の一員として戻ってきました、大谷啓輔です。

4度目の松任赴任となり、新任の紹介としては違和感がある方もいるかと思いますが、

今後は生涯にわたり、白山市、その近隣の地域医療に貢献していきたいと思っています。

専門は、循環器疾患全般ですが、特にカテーテル治療（冠動脈、末梢動脈、透析シャント）、心不全です。常に循環器チームとして患者さんに接することを意識していて、スタッフ教育や後輩医師の指導にも力を入れています。



前馬 秀昭

今年度より、松任石川中央病院に赴任した小児科の前馬秀昭です。専門は、小児血液、腫瘍を見ていました。当院では、腫瘍性疾患を治療することはありませんが、

上記疾患を疑うような患者様がいれば、鑑別診断し適切な医療機関へ紹介させていただきます。また地域医療に貢献していきたいと思っています。何卒よろしくお願い申し上げます。



越智 雅彦

この度公立松任石川中央病院に赴任しました越智 雅彦（オチ マサヒコ）と申します。

珍しい名字で読めない方もいると思いますが、出身である愛媛県に多い名字です。

大学から北陸に来て、縁あって大学卒業後も北陸の医療に携わっています。

専門は腎臓・高血圧・膠原病分野です。趣味は部活動でしていたバスケットボールや子供と遊んだりすることです。皆様のお力になれるように頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

令和4年度 学術講演会開催一覧

(学術担当理事 寺島 成明)

日 時	場 所	演 題	講 演 者
4/27 (水)	グランドホテル白山 WEB	心不全における心腎貧血連関 ～生活習慣病の関与と早期介入の重要性～	北海道大学大学院医学研究院 准教授 永井 利幸 先生
5/11 (水)	WEB	脳卒中治療ガイドライン2021に基づく脳血管内 治療	広南病院 血管内脳神経外科医 部長 松本 康史 先生
5/31 (火)	WEB	脳卒中に対する抗凝固・抗血小板療法	金沢脳神経外科病院 脳神経外科 部長 福島 大輔 先生
		抗血栓療法の最近の動向 ～循環器内科の立場～	金澤医科大学 心血管カテーテル治療学 臨床教授 土屋 武嗣 先生
6/15 (水)	松任文化会館 WEB	高岡市における在宅での栄養管理について	高岡駅南クリニック 院長 塚田 邦夫 先生
6/29 (水)	WEB	安定冠動脈疾患の診断と治療～Update～	公立松任石川中央病院循環器内科 部長 大谷 啓輔 先生
		パーキンソン病の臨床	金沢大学附属病院 脳神経内科 助教 野崎 一朗 先生
7/19 (火)	WEB	脊髄障害後疼痛患者の痛みと治療	石川県立中央病院 麻酔科 副院長 高橋 麗子 先生
		高齢者における運動器疼痛の病態と治療	金沢大学 整形外科 助教 加藤 仁志 先生
8/24 (水)	グランドホテル白山	夜間頻尿のしくみと対処	済生会金沢病院 泌尿器科 医長 石井 健夫 先生
9/20 (火)	グランドホテル白山 WEB	片頭痛に対する新たな治療選択肢の登場	金沢脳神経外科病院 脳神経外科 部長 旭 雄士 先生
		漢方薬で頭痛はここまで制御できる	筑波大学付属病院 脳神経外科 教授 柴田 靖 先生
9/28 (水)	WEB	腸内環境とサルコペニア	金澤医科大学病院 一般・消化器内科 准教授 宮下 知治 先生
10/13 (木)	グランドホテル白山	診療報酬改定で求められる整形領域の連携強化とは ～データから見るエリアの特徴を踏まえた対応 を考える～	メディチェア 代表取締役 代表取締役 渡辺 優 先生
		神経障害性疼痛に対するミロガバリンのupdate	公立能登総合病院 整形外科 部長 大成 一誓 先生
10/19 (水)	WEB	治療満足度が向上する便秘診療	富山県立中央病院 消化器内科 部長 松田 耕一郎 先生
		2型糖尿病に対するSGLT2阻害薬の役割 ～大規模臨床試験を中心に～	金沢大学附属病院 先端医療開発センター 特任教授 遠山 直志 先生
10/28 (金)		超高齢社会を見据えた糖尿病治療	北村内科医院 院長 石倉 和秀 先生
11/24 (木)	グランドホテル白山	総合病院における精神科の役割 ～リエゾン・認知症ケア回診を中心に～	公立松任石川中央病院 精神科 精神センター長 武藤 宏平 先生
		高齢者の入退院を見据えた不眠治療 ～処方最適化を目指した睡眠医療の病診連携～	福山市民病院 精神科・精神腫瘍科 科長 平 俊浩 先生
2/15 (水)	WEB	IBDにおける生物学的製剤の変遷	富山県立中央病院 消化器内科 部長 松田 耕一郎 先生
		精神難病の緩和ケア・終末期診療について	国立病院機構 医王病院 院長 駒井 清暢 先生
3/15 (水)	松任文化会館 WEB	糖尿病と高血圧	公立松任石川中央病院 糖尿病内分泌内科 医長 船崎 友響 先生
		慢性心不全進行阻止を考えた高血圧治療 ～ARNIIの心腎連関から考える臨床的意義～	東北大学大学院医学系研究科 特任教授 佐藤 文俊 先生
3/22 (水)	WEB	循環器領域における抗血栓療法 update	公立松任石川中央病院 循環器内科 主任部長 大谷 啓輔 先生
		抗血小板療法・抗凝固療法 脳神経外科医から	金沢脳神経外科病院 院長 山本 信孝 先生



黒瀬町より望む白山（令和5年3月撮影）

編集後記

寒さ暑さも彼岸までと言われますが、北陸の地は例年よりお彼岸前には気温が高めで5月並みになることもあり、予想以上にスギ花粉も飛散して、花粉症の方には辛い今年の春です。

そのような春の季節感が漂う中、白山ののいち医師会会報第16号を発刊することが出来ました。

これもひとえに、原稿をお寄せ頂いた先生方、編集委員の先生方、細かな作業や段取りをされる事務方を含め、関係して頂いた皆様のお陰です。心より感謝致します。

今回も、前号同様、長々と続くコロナ禍の中で、多くの医師会活動や行事が中止となり、それらの報告等が掲載できず、今号も忸怩たる思いです。

しかしながら、そのことを補うに十分すぎるくらいの寄稿を有志の先生方から頂き、内容の豊かな号となりました。改めて御礼を申し上げます。

本会報を通じて当医師会の活動に、ご理解かつ関心を寄せて頂けましたら幸いに存じます。ありがとうございます。

（会報編集委員長 橋本憲三：令和5年3月記）

発行責任者 松葉 明
編集委員長 橋本憲三
編集委員 柿木嘉平太・寺島成明・橋本憲三
古澤明彦・堀川 勲・松葉 明
武藤一彦・吉光康平
事務局 中山良久・武田智子

発刊所 前田印刷株式会社